

エコアクション21 環境活動レポート



第36期(2018.10 ~ 2019.9)

発行日 令和元年12月27日

 株式会社 科学技術開発センター

環境方針

◇基本理念◇

株式会社 科学技術開発センターは、「お客様に喜ばれ、地域に貢献をし、社員一人一人が豊かになる会社をめざす為に継続的に改善を行う」に基づき、事業活動における環境への影響を減らす事はもとより、社員一人一人が環境保全について意識を高め、お客様・地域社会に貢献するために努力します。

◇基本方針◇

1. 当社の事業活動に関係する、環境関連法規を厳守します。
2. 二酸化炭素排出量削減のため、継続的な改善に努めます。
3. 資源の再利用・廃棄物の削減を推進し、廃棄物排出量の削減に努めます。
4. 節水活動を周知徹底し、排水量・水使用量を削減します。
5. 化学物質及び薬品の管理・取扱いをしっかり行い、適正な管理をします。
6. 幅広い分野で発生するお客様の「お困り事」にお応えし、長年培ってきたノウハウと最先端機器を駆使し、高品質な総合コンサルタントを御提案致します。
7. 顧客をはじめとし、地域社会にも環境保全において貢献できるように、積極的に環境活動をし、関連する情報等も提供していきます。
8. 環境保全に積極的に取組むために、社員全員に環境方針を周知し、環境教育等を行い環境の保全について意識向上を図る。

制定日：平成30年8月30日

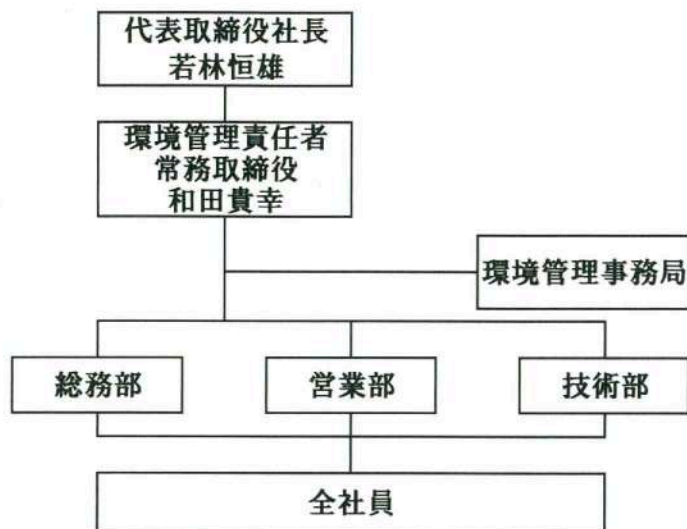


株式会社 科学技術開発センター

代表取締役社長

若林 恒雄

株式会社 科学技術開発センター 実施体制図及び役割・責任・権限表



	役割・責任・権限
代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人員・設備・費用・時間・技能・技術者の準備 ・管理責任者を任命 ・環境方針の策定・見直し及び全社員へ周知 ・環境目標・環境活動計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境活動レポートの承認
管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境目標・環境活動計画書を確認 ・環境活動の取り組み結果を代表者へ報告 ・環境活動レポートの確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境目標・環境活動計画書原案を確認 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等の取りまとめ表の作成 ・環境関連法規等の取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境活動レポートの作成・公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
部門責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・各部門における環境経営システムの実施 ・各部門における環境方針の周知 ・各部門の社員に対する教育訓練の実施及び記録の作成 ・各部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・特定された項目の手順書及び運用管理 ・各部門の特定された緊急事態への対応の為の手順書作成 ・各部門の問題点の発見・是正・予防処置の実施
全社員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められた事を守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

承認者	作成者

5-1.環境目標設定書

代表者承認	作成者
	

環境方針：二酸化炭素排出量削減

環境目標項目	電力の削減		
責任部門 実施責任者	技術部 環境計測課 測量係 小野沢		
基準年度値 〈前年度〉	149744 kwh 70379 kg-CO ₂		
	年度毎の目標・達成手段		
	第36期(2018.10~2019.9)	第37期(2019.10~2020.9)	第38期(2020.10~2021.9)
目標値	69675 kg-CO ₂	前期の値の-1% kg-CO ₂	前期の値の-1% kg-CO ₂
削減率	-1%	-1%	-1%
目標達成手段	<ul style="list-style-type: none"> ・第35期の状況を確認し、削減率及び達成手段の策定を検討し、活動内容を随時改善していく ・全社員が参加して活動するように、周知を行っていく。 ・測定システムの検証。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社員全員参加により、さらなる目標達成に向け、意欲的に活動できる環境を確立させる。 ・労働時間(残業)を減らして電気使用量の削減に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第37期の状況を確認し、削減率及び達成手段の策定を検討し、活動内容を随時改善していく ・全社員が参加して活動するように、周知を行っていく。

※二酸化炭素排出量の算出は、平成19年度の電気事業者別二酸化炭素排出係数中部電力株:0.47(kg-CO₂/kWh)を使用

環境方針：二酸化炭素排出量削減

環境目標項目	化石燃料の削減		
責任部門 実施責任者	技術部 環境計測課 測定係 大野		
基準年度値 〈前年度〉	29694 ℓ 71244 kg-CO ₂		
	年度毎の目標・達成手段		
	第36期(2018.10~2019.9)	第37期(2019.10~2020.9)	第38期(2020.10~2021.9)
目標値	70532 kg-CO ₂	前期の値の-1% kg-CO ₂	前期の値の-1% kg-CO ₂
削減率	-1%	-1%	-1%
目標達成手段	<ul style="list-style-type: none"> ・各課毎の業務計画の効率を良くし無駄な走行を減らし目標に向けての向上を図る。 ・使用量等の見える化をする事により、現状把握をし活動内容を策定していく。 ・タイヤの購入時や車の買換え時は、低燃費仕様のものやクリーンエネルギー車を選ぶようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第36期の状況を確認し、削減率及び達成手段の策定を検討し、活動内容を随時改善していく ・全社員が参加して活動するように、周知を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社員全員参加により、さらなる目標達成に向け、意欲的に活動できる環境を確立させる。

環境方針：廃棄物排出量削減

環境目標項目	一般廃棄物の削減		
責任部門 実施責任者	営業部 企画営業課 正村		
基準年度値 〈前年度〉	1429 kg		
	年度毎の目標・達成手段		
	第36期(2018.10~2019.9)	第37期(2019.10~2020.9)	第38期(2020.10~2021.9)
目標値	1415 kg	前期の値の-1% kg	前期の値の-1% kg
削減率	-1%	-1%	-1%
目標達成手段	<ul style="list-style-type: none"> ・分別を徹底し、廃棄物全体の量を減らす。 ・紙類の資源化を再度徹底していく。 ・コピー機のカウント機能を集計し、使用量の見える化をはかる。朝礼等で報告することにより社員全員の意識を統一させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第36期の状況を確認し、削減率及び達成手段の策定を検討し、活動内容を随時改善していく ・全社員が参加して活動するように、周知を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社員全員参加により、さらなる目標達成に向け、意欲的に活動できる環境を確立させる。

環境方針：排水量削減

環境目標項目	水道水の削減		
責任部門 実施責任者	技術部 環境分析課 上原		
基準年度値 〈前年度〉	939 m ³		
	年度毎の目標・達成手段		
	第36期(2018.10~2019.9)	第37期(2019.10~2020.9)	第38期(2020.10~2021.9)
目標値	930 m ³	前期の値の-1% m ³	前期の値の-1% m ³
削減率	-1%	-1%	-1%
目標達成手段	<ul style="list-style-type: none"> ・前期までに教育・周知徹底してきたことで、基盤を確立させて課毎に実施していける環境活動計画を策定していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第36期の状況を確認し、削減率及び達成手段の策定を検討し、活動内容を随時改善していく ・全社員が参加して活動するように、周知を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社員全員参加により、さらなる目標達成に向け、意欲的に活動できる環境を確立させる。

環境方針: 化学物質削減

環境目標項目	化学物質の削減		
責任部門 実施責任者	技術部 環境分析課 上原		
基準年度値 〈前年度〉	121 kg		
	年度毎の目標・達成手段		
	第36期(2018.10~2019.9)	第37期(2019.10~2020.9)	第38期(2020.10~2021.9)
目標値	120 kg	前期の値の-1% kg	前期の値の-1% kg
削減率	-1%	-1%	-1%
目標達成手段	<ul style="list-style-type: none"> 適切な使用管理を徹底し、測定のやり直しをなくすことにより必要最低限の使用に努め、削減につなげる。 定期的に薬品の在庫確認を行い、過剰発注の防止・使用状況の把握を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 第36期の状況を確認し、削減率及び達成手段の策定を検討し、活動内容を随時改善していく 全社員が参加して活動するように、周知を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 前期の状況を見直し目標達成手段の変更が必要となる場合は検討をしていく。

環境方針: 高品質な総合コンサルタントを御提案・環境の保全について意識向上を図る

環境目標項目	サービスの改善		
責任部門 実施責任者	総務部 総務課 畔上		
基準年度値 〈前年度〉	<ul style="list-style-type: none"> 社内パソコンをRoHS指令対応のものを購入 各種講習会の出席 		
	年度毎の目標・達成手段		
	第36期(2018.10~2019.9)	第37期(2019.10~2020.9)	第38期(2020.10~2021.9)
目標達成手段	<ul style="list-style-type: none"> 部門間のコミュニケーションをしっかりとる 講習会等に積極的に参加し、社員の知識力をアップする 最先端機器の導入 RoHS指令対応商品の購入を心掛ける 	<ul style="list-style-type: none"> 前期の状況を見直し目標達成手段の変更が必要となる場合は検討をしていく。 全社員が参加して活動するように、周知を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 前期の状況を見直し目標達成手段の変更が必要となる場合は検討をしていく。 全社員が参加して活動するように、周知を行っていく。

1.取組の対象組織・活動

(1) 認証・登録の対象事業所名及び代表者名

株式会社 科学技術開発センター
代表取締役社長 若林恒雄

(2) 所在地

長野県長野市大字北長池字南長池境2058-3

(3) 環境保全関係の責任者及び連絡先

環境管理責任者 和田貴幸
環境管理事務局担当者 畔上直子
連絡先 TEL 026-263-2010
FAX 026-263-2012
E-mail kgk@avis.ne.jp

(4) 業務内容

・環境調査、分析及びコンサルティング業務の提供

〈業務内容の詳細〉

環境計量証明(水質分析・大気調査・土壌分析・悪臭調査・騒音調査・振動調査)
放射能関係調査分析
産業廃棄物判定試験
作業環境測定(鉛物性粉じん・特定化学物質・金属類・有機溶剤関係・騒音等)
水道水に係わる水質分析及び調査
ビル管理環境分析(水道水分析・室内空気環境測定)
グリーン調達関連分析
建物診断(住宅機能診断)
各種地下埋設タンク及び地下埋設配管漏洩検査
ゴルフ場農薬調査
温泉法に基づく分析
環境影響調査
土壌汚染調査
公共測量に伴う測量業務全般(基準点測量・GPS測量・TS地形測量・その他の測量)

(5) 事業に係わる認定・登録

ISO 9001 (環境調査・分析及びコンサルティング業務の提供)登録機関 認定番号22305
計量証明事業登録:長野環境第31号(濃度)
計量証明事業登録:長野環境第50号(騒音レベル)
計量証明事業登録:長野環境第61号(振動加速度レベル)
ISO/IEC 17025:2005(食品検体中の放射性核種濃度測定)試験所認定 認定番号7327
作業環境測定(鉛物性粉じん・特定化学物質・金属類・有機溶剤関係・騒音等)
厚生労働大臣登録 水道水水質検査機関 第97号
建築物飲料水水質検査業登録 長野59水第8号
建築物空気環境測定業登録 長野県61空第18号
地下タンク及び地下埋設配管定期点検 認定20002号
温泉法に基づく分析機関登録 長野県第3号

(6) 事業規模

従業員数 : 30人 資本金 : 20,000,000円
延べ床面積 : 671.37㎡ 設立日 : 1984年 2月 3日

(7) 事業年度

10月 ~ 9月



5-2.環境目標及び環境活動計画書 第36期(2018.10~2019.9)

環境方針: 二酸化炭素排出量削減

※二酸化炭素排出量の算出は、平成19年度の電気事業者別二酸化炭素排出係数中部電力㈱:0.47(kg-CO₂/kWh)を使用

環境目標	環境目標の達成手段
電力の削減 基準年度(第35期)実績 149744 kwh 70379 kg-CO ₂ 第36期目標 目標値: 148247 kwh 69675 kg-CO ₂ 基準年度比 99% 削減率 -1% 第36期(2018.10~2019.9)の実績 154636 kwh 72679 kg-CO ₂	・空調温度の適正化(冷房:28℃ 暖房:22℃) ・電力削減の為の取り組み方について、環境活動計画の決定事項等達成手段の周知徹底 ----- 具体的な行動内容 ・各電気製品の新旧の確認をし、低出力で済むものは変更可能か検討する。 ・労働時間(残業)を減らして電気使用量の削減に努める。
《技術部 環境計測課 測量係》小野澤	

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
月別使用量 kwh	10289	10907	11807	13586	15947	13523	13236	9570	11446	12932	16577	14816
kg-CO ₂	4836	5126	5549	6385	7495	6356	6221	4498	5380	6078	7791	6964
果 計 kwh	10289	21196	33003	46589	62536	76059	89295	98865	110311	123243	139820	154636
kg-CO ₂	4836	9962	15511	21896	29391	35747	41968	46466	51846	57924	65715	72679
目 標 値 kwh	10286	21573	34613	47502	62611	75952	86992	95918	106541	118394	134964	148247
kg-CO ₂	4834	10139	16268	22325	29427	35697	40886	45082	50074	55645	63432	69675
評 価	△	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×

達成状況・是正策(実施責任者)		評価・指示(環境管理責任者・代表者)	
総 ・事務所棟のシングルサッシを複合サッシにした。 ・分析室の古いエアコンを2台省エネタイプのものに入れ替えた。 合 ・技術センターに作業効率の良い分析計を導入した。(ICP-MS・オートクレーブ)	定期的な確認・評価・是正	・事務所棟のシングルサッシを複合サッシに変更したのは、良かった。 ・技術センターにICP-MS・オートクレーブ、エアコンを導入したのは、良かった。 省エネ効果が期待出来る。	

環境方針: 二酸化炭素排出量削減

環境目標	環境目標の達成手段
化石燃料の削減 基準年度(第35期)実績 29694 ℓ 71244 kg-CO ₂ 第36期目標 目標値: 29397 ℓ 70532 kg-CO ₂ 基準年度比 99% 削減率 -1% 第36期(2018.10~2019.9)の実績 28236 ℓ 67825 kg-CO ₂	・定期的に車輛点検を行い、タイヤの空気圧・エンジンオイル・エレメント等の交換を行う。 ・効率のよい行動計画を立て無駄な動きを無くし、余裕をもって行動することにより使用料の削減と業務時間の削減に努める。 ・タイヤの購入時や車の買換え時は、低燃費仕様のものやクリーンエネルギー車を選ぶようにする ----- 具体的な行動内容 ・社用車のエコカー・低燃費車の導入 ・エコドライブを、常に心掛ける
実施責任者 《技術部 環境計測課 測定係》大野	

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
ガソリン ℓ	1835	1729	1917	1536	1762	1716	1701	1395	1922	1946	1534	1740
kg-CO ₂	4260	4014	4450	3565	4090	3984	3950	3239	4461	4518	3561	4041
軽油 ℓ	594	598	730	599	582	697	411	515	635	766	709	668
kg-CO ₂	1558	1569	1916	1573	1527	1829	1078	1351	1666	2010	1861	1754
果 計 ℓ	2428	4755	7402	9537	11880	14294	16406	18316	20872	23584	25827	28236
kg-CO ₂	5818	11401	17767	22905	28522	34335	39363	43953	50080	56608	62030	67825
目 標 値 ℓ	2757	5283	8155	10397	12544	15033	17130	19161	21535	24303	27022	29397
kg-CO ₂	6635	12703	19595	24994	30167	36117	41093	45964	51661	58280	64826	70532
評 価	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

達成状況・是正策(実施責任者)		評価・指示(環境管理責任者・代表者)	
総 ・朝礼での声掛けとデータの見える化により社員の意識は高まっています。 仕事量の増加もありましたが、目標値以下で達成できてます。 エコカーの増台の結果が出てきていると思われまます。	定期的な確認・評価・是正	・朝礼での声掛けは、引き続き継続して車両を使用する社員にCO2排出削減の意識を高めてもらう。 エコドライブへの心掛けや、業務ルートの効率を部署内で話し合い、目標値に近づける。 ・車両点検をしっかりと行う。	
合			

環境方針：廃棄物排出量削減

環境目標	環境目標の達成手段
一般廃棄物の削減 基準年度(第35期)実績 1429 kg 第36期目標 目標値: 1415 kg 基準年度比 99% 削減率 -1% 第36期(2018.10~2019.9)の実績 2493 kg	<ul style="list-style-type: none"> 可燃ごみ、不燃ごみ、プラスチックの分別をしっかり行う 紙類は廃棄物として出さず、循環資源・裏紙で再利用できる紙・機密書類とし分別する。 コピー機のスプリント防止及び、業務効率化を兼ねソフトの活用によるプリントの削減。 コピー機のカウント機能で毎月の集計を行い、数値の見える化を行う。 再使用及びリサイクルしやすい製品を、優先的に購入・使用する <p style="text-align: right;">実施責任者 《営業部 企画営業課》 正村</p>

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
月別排出量 (kg)	138	119	164	151	146	173	174	124	230	215	123	306
累計	138	257	421	1002	1148	1321	1495	1619	1849	2064	2187	2493
目標値	137	161	300	381	466	582	752	876	1014	1149	1275	1415
評価	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

※空白については、ゴミの排出がない月となります。

定期的な確認・評価・是正	
達成状況・是正策(実施責任者)	評価・指示(環境管理責任者・代表者)
36期の一般廃棄物の削減に関して、目標を達成することはできませんでした。社員数が増えている傾向もありますが、一人一人のゴミ削減に関する意識も薄れているのではないかと感じます。朝礼での呼びかけを徹底し、新たな達成手段の設定が必要かと思われます。	紙類の再利用や削減については、一人一人意思統一ができていないと見受けられる。その他可燃の廃棄物削減方法について検討し、目標達成に向け活動していく。

環境方針：排水量削減

環境目標	環境目標の達成手段
水道水の削減 基準年度(第35期)実績 939 m ³ 第36期目標 目標値: 930 m ³ 基準年度比 99% 削減率 -1% 第36期(2018.10~2019.9)の実績 945 m ³	<ul style="list-style-type: none"> 器具の洗浄等の時は、まめに水道を止める 冷却水を再利用し器具洗浄水として利用する 定期的に節水についての注意を促す <p style="text-align: right;">実施責任者 《技術部 環境分析課》 上原</p>

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
月別使用量 (m ³)	150		178		147		149		153		168	
累計	150		328		475		624		777		945	
目標値	145		314		453		634		787		930	
評価	×		×		×		×		×		×	

定期的な確認・評価・是正	
達成状況・是正策(実施責任者)	評価・指示(環境管理責任者・代表者)
36期を通じて、ほぼ目標値の使用量で推移している。社員一人一人の節水への意識が、排水量の削減につながっているとされる。今後も、適切な水道水使用を心掛けていく。	年間を通して、適切な水道使用がされている。器具や容器の洗浄に使用する水道使用量が多いため、効率的な洗浄を行うことが有効であると考えられる。来期に向けて、社内での節水を呼びかけていく。

環境方針：化学物質削減

環境目標	環境目標の達成手段
化学物質の削減 基準年度(第35期)実績 121 kg 第36期目標 目標値: 120 kg 基準年度比 99% 削減率 -1% 第36期(2018.10~2019.9)の実績 120 kg	<ul style="list-style-type: none"> 測定のやり直しをなくし、使用量を必要最低限にする 適切な使用管理を徹底する 試薬の在庫管理を通して適切な使用を心掛ける <p style="text-align: right;">実施責任者 《技術部 環境分析課》 上原</p>

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
月別使用量 (kg)	0	30	0	0	24	0	0	12	36	12	6	0
累計	0	30	30	30	54	54	54	66	102	114	120	120
評価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

定期的な確認・評価・是正	
達成状況・是正策(実施責任者)	評価・指示(環境管理責任者・代表者)
薬品棚で開封済みと未開封試薬が混在していることがあり、在庫管理に時間を要するため、分別して配置するように周知した。また、未開封薬品の在庫場所が把握できていない課員に対して、保管場所と薬品発注頻度について指示を出した。	薬品の在庫管理を定期的に行い、過剰発注の防止につなげることができた。薬品庫の整理整頓は、気が付いた課員が日々行うことで管理できるが、薬品の配置場所については、定期的に点検を行う必要がある。適切な配置を心掛けることで、在庫管理をしやすくする効果が期待でき、無駄な発注をなくしていく。

環境方針： 高品質な総合コンサルタントを御提案・環境の保全について意識向上を図る

環 境 目 標		環 境 目 標 の 達 成 手 段	
サービスの改善 基準年度(第35期)実績 ・社内パソコンをRoHS指令対応のものを購入 ・各種講習会の出席 第36期目標 ・長年培ってきたノウハウと最先端機器を駆使し 高品質な総合コンサルタントを御提案する ・お客様からのクレームゼロを目指して 製品の提供に努力して行く ・社員の知識力を上げる事により 他社との差別化によるシェアの拡大 ・環境適正製品の購入を心掛ける		・部門間のコミュニケーションをしっかりと、お客様に正確かつ迅速により良い製品を提供する ・各種講習会に積極的に参加し、社員の知識力をアップする ・最先端機器の導入 ・RoHS指令対応商品の購入を心掛ける	
		実施責任者 (総務部 総務課) 畔上	
定期的な確認・評価・是正			
達成状況・是正策(実施責任者)		評価・指示(環境管理責任者・代表者)	
上半期	お客様からのクレームゼロを目指して、製品の提供に努力している。 研修会、講習会にも、積極的に参加している。 社員が環境計量士(濃度)、作業環境測定士(第1種)の資格を取得した。	部門間のコミュニケーションをしっかりと、お客様に正確な製品を迅速に提供出来るように引き続き努力していく。 環境計量士(濃度)、作業環境測定士(第1種)の資格を取得したのは、良かった。	
総合	研修会、講習会にも積極的に参加して、お客様からのクレームゼロを目指し、活動をした。 環境適正製品の購入を心掛けた。 社員が環境計量士(濃度)、作業環境測定士(第1種)の資格を取得してくれたのは、良かった。	積極的に講習会、研修会に出席することにより、価値のある商品を提供出来るように努力をしていく。 資格保持者が増えるように各自のレベルアップを心掛けていく。 技術部との連携で、高品質な総合コンサルタントを提案出来るようにしていく。	

代表者による全体取組状況の評価及び見直しの結果

活動目標として、電気使用量・化石燃料・一般廃棄物の削減を中心に行なってきました。

結果として目標が達成していない分野がありますが、内容について詳細を確認しますと、電力は前年度より約3%増加し、化石燃料は約5%削減しています。一般廃棄物は引き続き紙類をリサイクル業者に回収して頂いておりますが、前年度より削減することが出来ませんでした。(紙類のリサイクル料H30.10月～R1.9月まで、5,840円)引き続き、朝礼により節電とエコドライブ及びゴミの分別の周知徹底を行って行きたいと考えています。

36期は、省エネ対策として、事務所棟のサッシを複合サッシにし、技術センターでは新たに効率の良い分析計を導入しています。

省エネや節約には限界が来ていますが、熱効率の良いものに、また、分析の効率が良い事により、

来期は、電気、灯油等の節約に期待が持てる。

今後は、業務改善(効率の良い働き方)や新しい機器の導入による業務時間の短縮を試み継続的に改善を進めていきます。

環境目標を達成する手段として各部門毎に、PDCAサイクルをしっかりと行い、**「いつ・誰が・なにを・どのように」と**いった、一段階ほり上げた行動内容を明確にしていくことが重要となりますので、これを考慮し第37期の目標と今後の中長期目標についても検討し改善を図ります。

令和元年12月27日
代表取締役社長 若林 恒雄

水質汚濁防止法	第36期9月現在はずべて遵守されています
浄化槽法	第36期9月現在はずべて遵守されています
フロン排出抑制法	第36期9月現在はずべて遵守されています
外部からの苦情等	第36期9月までありません

過去3年間違法・訴訟などはありません。

以 上

環境目標の達成への取り組みについて

CO2排出量削減については電力と化石燃料が主なものですので、電力、化石燃料の削減方法として

- ①事務所棟の複合サッシへの変更を実施 !! (技術センター棟は、既に複合サッシへ変更済み)
- ②技術センターのエアコン2台も、省エネタイプのものに変更!!
- ③技術センターに、ICP-MS・オートクレーブの導入により作業効率アップ!!

※事務所棟



※技術センター (試料保管室)



※技術センター (有機前処理室)



※技術センター (ICP-MS)



※技術センター
(オートクレーブ)

— "地球の奇跡"をいつまでも守り続けるために—

